



## ゾーンの保護

この章では、Cisco Guard (Guard) の設定およびアクティブ化の方法について説明します。これらの手順は、ゾーン保護をイネーブルにするために必要です。

この章には、Guard の関連製品である Cisco Detector (Detector) についての記述があります。Detector は、Distributed Denial of Service (DDoS; 分散型サービス拒絶) 攻撃を検出するデバイスで、ゾーン トラフィックのコピーを分析します。Detector は、ゾーンが攻撃を受けていると判断したときに、Guard の攻撃軽減サービスをアクティブにできます。また、Detector は Guard とゾーン設定を同期させることができます。Detector の詳細については、『*Cisco Traffic Anomaly Detector Module Configuration Guide*』および『*Cisco Traffic Anomaly Detector Configuration Guide*』を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [ゾーンについて](#)
- [オンデマンド保護のアクティブ化](#)
- [Guard がゾーン保護を行う方法を設定する](#)
- [保護アクティベーション方式の設定](#)
- [ゾーン保護をアクティブにする詳細度の設定](#)
- [保護アクティベーション範囲の設定](#)
- [サブゾーンについて](#)
- [保護の無活動タイムアウトの設定](#)
- [ゾーン保護のアクティブ化](#)
- [ゾーン保護の非アクティブ化](#)

## ゾーンについて

ゾーン保護をアクティブにする前に、Detector から Guard にゾーンのトラフィックパターンをラーニングさせるか、またはゾーンポリシーを含めたゾーン設定を同期しておくことをお勧めします。ラーニングプロセスにより、Guard で各ゾーンのトラフィックパターンをラーニングし、ゾーントラフィックの統計分析に従って推奨のしきい値のセットを作成することができます。ゾーンの IP アドレス範囲が重なっていなければ、複数のゾーンを同時に保護できます。

ラーニングプロセスを開始する前にトラフィックの宛先変更を設定するか、ゾーンのトラフィックを Guard に手動で宛先変更する必要があります。Guard のルーティング設定を使用して、ゾーンの宛先変更を設定してください。

詳細については、[第4章「トラフィックの宛先変更の設定」](#)を参照してください。

ゾーンが攻撃を受けていなければ、保護およびラーニング機能をアクティブにして、Guard がゾーントラフィックを常に宛先変更するようにし、ゾーンポリシーのしきい値を調整できます。詳細については、[P.5-15 の「Guard の Cisco Traffic Anomaly Detector とのゾーン設定の同期」](#)を参照してください。

次の保護特性を定義できます。

- 動作モード：Guard がゾーン保護を実行する方法を設定して、Guard がゾーン保護手段を自動的に適用するか、またはインタラクティブな方式で適用するかを定義できます。
- アクティベーション方式：ゾーンをアクティブにするときに、ゾーン名、ゾーンのアドレス範囲、または受信トラフィックのいずれに従うかを定義します。ゾーン保護が外部デバイス (Detector など) によってアクティブにされる場合は、アクティベーション方式を設定する必要があります。
- アクティベーション範囲：ゾーン保護を、ゾーンのアドレス範囲全体についてアクティブにするか、ゾーン内の特定の IP アドレスに限定してアクティブにするかを定義します。アクティベーション範囲は、ゾーン保護が Detector などの外部デバイスによってアクティブにされる場合に限り、ゾーンに適用されます。
- 保護の終了のタイムアウト：Guard がゾーン保護を終了するまでのタイムアウトを定義します。

## オンデマンド保護のアクティブ化

ゾーンが攻撃を受けている場合、ゾーントラフィック特性をラーニングするために Guard をイネーブルにしなくても、システム定義のゾーンテンプレートを使用してゾーンを保護できます。ゾーンテンプレートにおける定義済みのポリシーとフィルタにより、Guard に未知のトラフィック特性を持つゾーンを保護できます。これらのゾーンポリシーのデフォルトのしきい値は、ゾーンのトラフィックに異常を発見した場合に Guard がスプーフィング防止メカニズムをすぐにアクティブにするように調整されています。

送信元 IP アドレスをブロック（ドロップ）するために使用されるデフォルトのしきい値は、事前定義されたポリシーで高い値に設定されています。ポリシーのしきい値がゾーントラフィック用に調整されていないため、スプーフィングされていない攻撃を軽減するには、ユーザが介入するオンデマンド保護が必要です。正当なトラフィックと悪意のあるトラフィックのゾーンのレートを監視して、Guard の軽減アクションを確認する必要があります。

ゾーンに対する攻撃があり、次のいずれかの条件に当てはまる場合は、ゾーンのオンデマンド保護が必要になる場合があります。

- ゾーンがラーニングプロセスの実行中である。
- 保護およびラーニング機能がイネーブルになっているが、Guard は、ゾーンのトラフィック特性をラーニングしていない。
- ゾーンのトラフィックを表さないと考えられるポリシーのしきい値を受け入れている。

オンデマンド保護をアクティブにするには、次の手順を実行します。

---

**ステップ 1** 次のコマンドを入力して新しいゾーンを作成します。

```
zone new-zone-name [template-name] [interactive]
```

詳細については、[P.5-6](#)の「ゾーンテンプレートからの新しいゾーンの作成」を参照してください。

## Guard がゾーン保護を行う方法を設定する

**ステップ 2** ゾーンの IP アドレスを定義するには、次のコマンドを入力します。

```
ip address ip-addr [ip-mask]
```

詳細については、[P.5-10](#) の「[ゾーンのアトリビュートの設定](#)」を参照してください。

**ステップ 3** 次のコマンドを入力してゾーン保護をアクティブ化します。

```
protect
```

詳細については、[P.9-15](#) の「[ゾーン保護のアクティブ化](#)」を参照してください。

**ステップ 4** ゾーンのトラフィック パターンを分析します。詳細については、[第 14 章「Guard による軽減の分析」](#) を参照してください。

---

## Guard がゾーン保護を行う方法を設定する

次のいずれかの方法で、Guard がゾーン保護を実行するように設定できます。

- 自動保護モード：動的フィルタはユーザの操作なしでアクティブになります。この動作モードはデフォルトです。
- インタラクティブ保護モード：動的フィルタは、インタラクティブ モードにおいて手動でアクティブになります。動的フィルタは推奨事項としてグループ化され、ユーザの決定を待ちます。ユーザは、どの推奨事項を受け入れるか、無視するか、自動アクティベーションに切り替えるかを確認して決定できます。

詳細については、[第 10 章「インタラクティブ保護モードの使用法」](#) を参照してください。

## 保護アクティベーション方式の設定

保護アクティベーション方式は、外部からの攻撃の兆候を受信したときに、ゾーン保護をアクティブにするゾーンを Guard がどのように識別するかを定義します。この兆候には、外部デバイス (Detector など) からのコマンドや、ゾーンを宛先とするトラフィック (パケット) があります。

Guard が保護をアクティブにするために使用する方式は、次のいずれかです。

- IP アドレス：ゾーンの一部である IP アドレスまたはサブネットで構成された Detector などの外部デバイスからコマンドを受信した場合に、ゾーン保護をアクティブにします。
- パケット：ゾーン宛てのトラフィックを受信したときにゾーン保護をアクティブにします。
- パケットまたは IP アドレス：ゾーンを宛先とするトラフィック (パケット) を受信した場合、またはゾーンのアドレス範囲の一部である IP アドレスまたはサブネットで構成される Detector などの外部デバイスからのコマンドを受信した場合に、ゾーン保護をアクティブにします。
- ゾーン名のみ：ゾーン名に基づいてゾーン保護をアクティブにします。

パケットか、パケットまたは IP アドレスの保護アクティベーション方式でゾーンを構成する場合、次の手順を実行します。

- 外部デバイスを使用してゾーン トラフィックを Guard に手動で宛先変更する必要があります。これを設定しないと、Guard はゾーンのトラフィックを監視できません。
- **protect-packet activation-sensitivity** コマンドを入力すると、Guard がゾーン トラフィックをアクティブにするために必要な最小受信トラフィック レートを設定できます (詳細については、[P.9-9 の「ゾーン保護をアクティブにする詳細度の設定」](#)を参照してください)。
- 同一のアドレス範囲に 2 つ以上のゾーンを設定しないでください。複数のゾーンを設定すると、ゾーン保護は正しく機能しません。

保護アクティベーション方式がゾーン名のみ以外の場合、Guard は、ゾーンのアクティベーション範囲に従って、ゾーン全体または指定された IP アドレス範囲をアクティブにします。ゾーン名のみの場合、Guard はゾーン全体をアクティブにします (詳細については、[P.9-10 の「保護アクティベーション範囲の設定」](#)を

参照してください。

保護アクティベーション方式を設定するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

```
activation-interface {ip-address | packet [divert] | packet-or-ip-address [divert]
| zone-name-only}
```

デフォルトは **zone-name-only** です。既存のゾーンを複製してゾーンを作成する場合、複製元になったゾーンの設定にかかわらず、保護アクティベーション方式は **zone-name-only** に設定されます（詳細については、[P.5-8](#) の「[既存のゾーンの複製による新しいゾーンの作成](#)」を参照してください）。

表 9-1 に、**activation-interface** コマンドのキーワードを示します。

表 9-1 activation-interface コマンドのキーワード

パラメータ	説明
ip-address	ゾーンの一部分である IP アドレスまたはサブネットで構成された Detector などの外部デバイスからコマンドを受信した場合に、ゾーン保護をアクティブにします。Guard はゾーンのデータベースをスキャンし、受信 IP アドレスまたはサブネットを含むアドレス範囲を持つゾーンをアクティブにします。受信 IP アドレスを含むアドレス範囲を持つ複数のゾーンが設定されている場合、Guard は、プレフィックスが最も長く一致するゾーン（受信 IP アドレスを含むアドレス範囲が最も限定的なゾーン）をアクティブにします。受信 IP アドレスまたはサブネットは、ゾーンの IP アドレス範囲に完全に含まれている必要があります。

表 9-1 activation-interface コマンドのキーワード (続き)


パラメータ	説明
packet	<p>ゾーン宛てのトラフィックを受信したときにゾーン保護をアクティブにします。Guard はゾーンのデータベースをスキャンし、受信パケットの IP アドレスを含むアドレス範囲を持つゾーンをアクティブにします。受信パケット IP アドレスを含むアドレス範囲を持つ複数のゾーンが設定されている場合、Guard は、プレフィックスが最も長く一致するゾーン (受信 IP アドレスを含むアドレス範囲が最も限定的なゾーン) をアクティブにします。受信 IP アドレスまたはサブネットは、ゾーンの IP アドレス範囲に完全に含まれている必要があります。</p> <p> (注) パケットの保護アクティベーション方式でゾーンを設定する場合、Guard はアクティブなゾーンが宛先になっていないトラフィックを処理する方法を変更します。そのトラフィックへの注入を設定した場合、Guard はトラフィックをドロップする代わりに転送します。</p>
divert	<p>(オプション) BGP 通知を隣接ルータに送信して、ゾーントラフィックを元のパスから Guard に宛先変更します。Detector が BGP を使用して、Guard のゾーン保護をアクティブにする場合、divert キーワードを使用します。詳細については、『Cisco Traffic Anomaly Detector Configuration Guide』を参照してください。</p>
packet-or-ip-address	<p>ゾーンを宛先とするトラフィック (パケット) を受信した場合、またはゾーンのアドレス範囲の一部である IP アドレスまたはサブネットで構成される Detector などの外部デバイスからのコマンドを受信した場合に、ゾーン保護をアクティブにします。詳細については、この表の ip-address および packet の保護アクティベーション方式を参照してください。</p>

表 9-1 activation-interface コマンドのキーワード（続き）

パラメータ	説明
zone-name-only	ゾーン名に基づいてゾーン保護をアクティブにします。Guard は、Guard が Detector などの外部デバイスから受信したコマンドで呼び出されたゾーンのゾーン保護をアクティブにします。このアクティベーション方式はデフォルトです。

次の例は、保護アクティベーション方式を設定する方法を示しています。これにより、ゾーンの IP アドレス範囲内のパケットを受信すると、Guard は保護をアクティブにします。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# activation-interface packet
```



(注)

アクティベーション範囲が ip-address-only で (P.9-10 の「保護アクティベーション範囲の設定」を参照)、アクティベーション方式が zone-name-only でない場合は、**protection-end-timer** コマンドを使用して、ゾーンに対する攻撃が終了したことを Guard が識別するためのタイマーを設定することをお勧めします (P.9-13 の「保護の無活動タイムアウトの設定」を参照)。**protection-end-timer forever** コマンドを入力した場合、Guard は、攻撃が終了したときに、ゾーン保護を終了しません。また、特定の IP アドレスを保護するために作成したサブゾーンを削除しません。

受信 IP アドレスまたはパケットが他のどのゾーンの一部でもない場合に備えて、保護のための Guard のデフォルトゾーンを作成することができます。デフォルトのゾーンを定義できるのは、ネットワークが同種であるために、同じゾーンテンプレートを使用できる場合だけです。デフォルトのゾーンに対してラーニングプロセスを実行することはできません。IP アドレスが 0.0.0.0 で、サブネットが 0.0.0.0 のゾーンを作成します。アクティベーション範囲を ip-address として定義します (P.9-10 の「保護アクティベーション範囲の設定」を参照)。

ゾーンのアクティベーション方式を表示するには、ゾーン設定モードで **show running-config** コマンドを使用します。



## ゾーン保護をアクティブにする詳細度の設定

Guard がゾーン保護をアクティブにするために使用する方式が `packet` か、`packet-or-ip-address` の場合、単一 IP アドレスへの受信トラフィック レートがアクティベーションの詳細度よりも高い場合に限り、Guard はゾーン保護をアクティブにします。アクティベーションの詳細度はグローバルに定義され、すべてのゾーンに適用されます。

ゾーン保護をアクティブにするのに必要な最小パケット レートを変更するには、設定モードで次のコマンドを使用します。

### **protect-packet activation-sensitivity *min-rate***

*min-rate* 引数には、Guard がゾーン保護をアクティブにする原因となる、単一のゾーン宛先 IP アドレス宛での最小パケット レートを定義します。デフォルトは 0 パケット / 秒 (pps) です。

次の例は、アクティベーション詳細度を 10 pps に設定する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf# protect-packet activation-sensitivity 10
```

## 保護アクティベーション範囲の設定

保護アクティベーション範囲は、Guard が外部からの攻撃の兆候を受信した場合に、ゾーン全体またはゾーンの一部に対してゾーン保護をアクティブにするかどうかを定義します。この兆候には、外部デバイス（Detector など）からのコマンドや、ゾーンを宛先とするトラフィック（パケット）があります。

Guard は、次のアクティベーション範囲をサポートします。

- ・ **ゾーン全体**：ゾーン全体についてゾーン保護をアクティブにします。Guard は、ゾーンを宛先とするトラフィックを受信した場合、またはゾーンの一部である IP アドレスまたはサブネットで構成される外部からの攻撃の兆候を受信した場合に、ゾーン保護をアクティブにします。
- ・ **IP アドレスのみ**：指定した IP アドレスまたはサブネットに限定してゾーン保護をアクティブにします。Guard がゾーンを宛先とするトラフィックを受信した場合、またはゾーンの一部である IP アドレスまたはサブネットで構成される Detector などの外部デバイスからのコマンドを受信した場合、Guard は新しいゾーン（サブゾーン）を作成します。このアクティベーション範囲はデフォルトです。詳細については、P.9-11 の「サブゾーンについて」を参照してください。

アクティベーション範囲を設定するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

```
activation-extent {entire-zone | ip-address-only}
```

表 9-2 に、**activation-extent** コマンドのキーワードを示します。

表 9-2 activation-extent コマンドのキーワード

パラメータ	説明
<b>entire-zone</b>	ゾーン全体のゾーン保護をアクティブにします。
<b>ip-address-only</b>	指定した IP アドレスまたはサブネットに限定してゾーン保護をアクティブにします。このアクティベーション範囲はデフォルトです。

次の例は、**activation-extent** コマンドを使用して、ゾーン全体のゾーン保護のアクティベーション範囲を設定する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# activation-extent entire-zone
```

ゾーンのアクティベーション範囲を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

## サブゾーンについて

ゾーンの一部（ソース ゾーンのすべての IP アドレス範囲を含まないゾーン）に対してゾーン保護をアクティブにした場合、Guard はサブゾーンを作成します。サブゾーンの IP アドレス範囲は、ソース ゾーンのアドレス範囲に含まれます。

サブゾーンの設定は、IP アドレスと名前が異なる場合を除いて、ソース ゾーンの設定と同様です。サブゾーンの名前は、ソース ゾーン名の最初の 30 文字と、アンダースコアで連結された IP アドレスおよびサブネット構成されます。サブゾーンが単一の IP アドレスで構成される場合、サブネットは追加されません。たとえば、ソース ゾーンの名前が *scannet* で、アドレス範囲 *10.10.10.0* とサブネット *255.255.255.0* を持つ場合に、Guard が IP アドレス *10.10.10.192* の内部範囲およびサブネット *255.255.255.252* に対してゾーン保護をアクティブにすると、サブゾーンの名前は *scannet\_10.10.10.192\_255.255.255.252* となります。

サブゾーンの IP アドレスおよびサブネットは、Guard が外部コマンドとともに受信したもの、または Guard がゾーン保護をアクティブにする原因となったパケットの IP アドレスです。

Guard がゾーン保護を終了すると、Guard はサブゾーンを削除します。Guard は、ソース ゾーンに対して設定されたアクティベーション方式と保護の終了のタイムアウトに従って終了します。**no protect** コマンドまたは **deactivate** コマンドを使用してゾーン保護を手動で終了した場合、Guard はサブゾーンを削除しません。



(注)

**protection-end-timer forever** コマンドを使用して Guard がゾーン上の攻撃が終了したかどうかの識別に使用するタイマーを設定する場合、Guard は攻撃が終了したときにゾーン保護を終了せず、サブゾーンを消去しません。

Guard がサブゾーンを削除しても、サブゾーンのログと攻撃レポートは消去されません。

Guard がサブゾーンを消去した後にサブゾーンのログおよびレポートを表示するには、次のコマンドを使用します。

- **show log *sub-zone-name*** : 詳細については、P.12-2 の「Guard の設定の表示」を参照してください。
- **show reports *sub-zone-name* [*report-id* | **current**] [**details**]** : 詳細については、P.11-13 の「攻撃レポートの表示」を参照してください。

ゾーンから作成されたサブゾーンのリストを表示するには、コマンドを入力して *sub-zone-name* 引数で **Tab** キーを押します。

次の例は、消去されたサブゾーンのログを表示する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# show logs scannet_10.10.10.192
```

## 保護の無活動タイムアウトの設定

Guard は、ゾーンに対する攻撃が終了したと判断したときに、ゾーン保護およびラーニング プロセスをアクティブまたは非アクティブにできます。Guard がゾーンを保護している場合、ゾーンが攻撃を受けなくなった時点でゾーン保護を終了します。保護およびラーニング機能がイネーブルの場合、Guard はゾーンへの攻撃を検出したときにラーニング プロセスを非アクティブにし、ゾーンへの攻撃がなくなったときにラーニング プロセスを再開します。

Guard は、ゾーンに対する攻撃が終了したかどうかを無活動タイムアウトに従って確認します。このタイムアウトは、数秒から無限まで定義できます。

無活動タイムアウトを定義するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

```
protection-end-timer {time-seconds | forever}
```

表 9-3 に、`protection-end-timer` コマンドの引数とキーワードを示します。

表 9-3 protection-end-timer コマンドの引数とキーワード

パラメータ	説明
<code>time-seconds</code>	タイムアウト (秒単位)。61 以上の整数を入力します。
<code>forever</code>	無限のタイムアウトを設定します。

デフォルトは `forever` です。デフォルト値を変更しない場合は、ゾーン保護を手動で非アクティブにする必要があります。

次の例は、保護の無活動タイムアウトを設定する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scanner# protection-end-timer 300
```

Guard は、動的フィルタの無活動およびドロップされたトラフィックに基づいて無活動を測定します。事前定義された期間中に、使用中になった動的フィルタがなく、次の両方の条件に該当している場合、Guard はゾーンに対する攻撃が終了したものと見なします。

- 新しい動的フィルタが追加されていない: 動的フィルタを削除するタイミングを Guard がどのように決定するかについては、P.6-40 の「動的フィルタの非アクティブ化」を参照してください。

- ドロップされるゾーン トラフィックのレートが定義されているしきい値よりも低い場合：Guard は、攻撃の一部として識別されている動的フィルタ、ユーザ フィルタ、およびフレックスコンテンツ フィルタが攻撃の一部として識別するゾーン パケットをドロップします。また Guard は、**rate-limit** コマンドを使用してゾーンに対して定義されたレート リミットを超過したトラフィックをドロップします。Guard はゾーンの Dropped カウンタを使用してドロップするパケットをカウントします（詳細については、P.12-4 の「[カウンタを使用したトラフィックの分析](#)」を参照）。デフォルトのしきい値は 1 pps です。ドロップ カウンタのしきい値を変更するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを入力します。

#### **attack-detection zone-malicious-rate threshold**

*threshold* 引数には、ドロップされるゾーン パケットの最小レートを定義します。レートがこのしきい値より低くなった場合、Guard はゾーン保護を終了することがあります。レートがこのしきい値を超えた場合、Guard はゾーンへの攻撃を識別し、攻撃レポートを作成します。

ゾーンのアクティベーション方式が **Packet** である場合、Guard はゾーンを非アクティブにする前に、受信したトラフィックに基づいて無活動をチェックします。Guard が保護を非アクティブにするのは、上の条件に該当し、ゾーン宛てのパケットをまったく受信しなかった場合のみです。

## ゾーン保護のアクティブ化

外部デバイス（Detector など）がゾーンへの攻撃を検出してから、ゾーンを保護するように Guard を設定することもできますが、ゾーンの設定が完了してから Guard をアクティブ化してゾーンを保護することもできます。Guard は、ゾーンを保護するときにゾーンのトラフィックを Guard に宛先変更し、保護ポリシーを適用します。

Guard がゾーンのトラフィック特性をラーニングし終わる前にゾーンが攻撃を受けた場合は、オンデマンドの保護を使用してゾーンを保護してください。新しいゾーンに対する Guard のデフォルトのしきい値を使用すると、効果的なオンデマンド保護を実行できます。詳細については、[P.9-3 の「オンデマンド保護のアクティブ化」](#)を参照してください。



(注)

**activation-interface packet** コマンドを使用して、アクティベーション範囲を packet に設定している場合は、外部デバイスを使用して、ゾーンのトラフィックを手動で Guard に宛先変更する必要があります。このようにしないと、Guard はゾーンのトラフィックを監視できません。

ゾーン保護は、次の方法でアクティブにできます。

- ゾーン全体の保護
- ゾーンのアドレス範囲の一部である、IP が特定されたゾーンの保護
- 特定の IP アドレスの保護（IP アドレスが IP アドレス範囲に含まれているゾーンの名前がわからない場合でも可能）



ヒント

Guard がゾーンのトラフィックを受信していることを確認してください。ゾーン保護をアクティブにしてから少なくとも 10 秒待ってから、**show rates** コマンドを入力します。レートのうち少なくとも 1 つの値がゼロより大きいことを確認します。すべてのレートの値がゼロの場合は、宛先変更の問題があることを示しています。詳細については、[第4章「トラフィックの宛先変更の設定」](#)および付録 B「[宛先変更のトラブルシューティング](#)」を参照してください。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [ゾーン全体の保護](#)
- [ゾーンのアドレス範囲の部分である IP ゾーンの保護](#)
- [ゾーン名が未知の場合に IP アドレスを保護する](#)

## ゾーン全体の保護

ゾーン設定モードで次のコマンドを入力することにより、ゾーン全体を保護できます。

```
protect [learning]
```

オプションの **learning** キーワードは、Guard がゾーンを保護してポリシーのしきい値を調整するように設定します。詳細については、[P.8-11](#) の「[ポリシーしきい値の調整](#)」を参照してください。

次の例は、ゾーン保護をアクティブにする方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# protect
```

## ゾーンのアドレス範囲の部分である IP ゾーンの保護

ゾーンのアドレス範囲の一部である、IP が特定されたゾーンを保護できます。この場合は、Guard により、新しいゾーンが作成されます。新しいゾーンの名前は、元になるゾーンの最初の 30 文字と、アンダースコアで連結された特定の IP アドレスで構成されます。同じ名前のゾーンがすでに存在する場合、Guard は同じ名前の別のゾーンを作成せず、既存のゾーンに対する保護をアクティブにします。

IP が特定されたゾーンについてゾーン保護をアクティブにするには、グローバルモードで次のコマンドを使用します。

```
protect zone-name ip-address-general
```

[表 9-4](#) に、**protect** コマンドの引数を示します。



表 9-4 ゾーン設定モードの protect コマンドの引数

パラメータ	説明
<i>zone-name</i>	ゾーンの名前。
<i>ip-address-general</i>	ゾーン アドレス範囲内の特定の IP アドレス。IP アドレスをドット区切り 10 進表記で入力します。たとえば、192.168.5.6 を入力します。

このゾーンを削除するには、**zone** コマンドの **no** 形式を使用します。

次の例は、ゾーン **scannet** の IP アドレス範囲に含まれている IP アドレス 192.168.5.6 のゾーン保護をアクティブにする方法を示しています。

```
user@GUARD# protect scannet 192.168.5.6
creating zone scannet_192.168.5.6
user@GUARD#
```

## ゾーン名が未知の場合に IP アドレスを保護する

IP アドレスが含まれている IP アドレス範囲を持つゾーンの名前がわからない場合でも、グローバル モードで次のコマンドを入力することにより、特定の IP アドレスを保護できます。

```
protect ip-address-general [subnet-mask]
```

表 9-5 に、**protect** コマンドの引数を示します。

表 9-5 グローバル モードの protect コマンドの引数

パラメータ	説明
<i>ip-address-general</i>	ゾーンのアドレス範囲内の特定の IP アドレス。IP アドレスをドット区切り 10 進表記で入力します。たとえば、192.168.5.6 を入力します。
<i>subnet-mask</i>	(オプション) ゾーン保護をアクティブにするサブネットマスク。IP アドレスをドット区切り 10 進表記で入力します。たとえば、255.255.255.252 と入力します。

## ■ ゾーン保護の非アクティブ化

Guard は、IP アドレス アクティベーション方式に基づいて、その IP アドレスを含む IP アドレス範囲を持つゾーンに対するゾーン保護をアクティブにします。詳細については、P.9-10 の「保護アクティベーション範囲の設定」を参照してください。

次の例は、IP アドレス 192.168.5.6 のゾーン保護をアクティブにする方法を示しています。

```
user@GUARD# protect 192.168.5.6
```

複数のゾーンに対して同時に保護関連のコマンドを入力できます。これには、グローバル モードで、ワイルドカードにアスタリスク (\*) を使用してコマンドを入力します。たとえば、すべてのゾーンについてゾーン保護を停止する場合は、グローバル モードで **no protect \*** コマンドを入力します。名前が *scan* で始まるゾーン (*scannet* や *scanserver* など) すべてについてゾーン保護を停止する場合は、グローバル モードで **no protect scan\*** コマンドを入力します。

## ゾーン保護の非アクティブ化

ゾーンに対する攻撃がなく、ゾーンのトラフィック異常の検出を他のソースに依存しているときは、ゾーン保護を非アクティブにして、Guard へのトラフィックの宛先変更を終了することができます。

ゾーン保護を非アクティブにするには、ゾーン設定モードで次のコマンドのいずれかを使用します。

- **no protect** : ゾーン保護を終了します。保護およびラーニング機能をイネーブルにすると、Guard はポリシーのしきい値のラーニングを継続します。
- **deactivate** : ゾーン保護と、ラーニング プロセスのしきい値調整フェーズの両方を終了します。

次の例は、ゾーン保護およびラーニング プロセスを非アクティブにする方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# deactivate
```